

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、テレワークやオンライン授業がはじまり、今年で2年以上となる。昨年より、担当する授業では、感染対策と共に、配慮や工夫をしながら、対面授業を行っている。

担当授業は、統計学を中心としたデータサイエンス系科目、企業連携科目、そしてゼミナールである。チームで協同作業を行い、発表をすることもあるが、個人では、データ分析の分析結果をまとめたり、アンケート調査の結果をまとめたり、と報告書として、文書

コロナ禍による大学教育の現場から

めることに苦慮し、引用の仕方、参考文献の使い方、大学の中よりさらに得てきていないのが現状である。国立教育政策研究所による令和4年度全国学力・学習状況調査の結果(概要)では、上述と同様の課題があがっており、今後も注視する必要がある。

ここ数年、学生指導のやりとりの中で、対面でも、チャットなどのテキストメッセージでも、反応が薄く、正確に伝わらないことが多くなってきた。自分にとつて都合のよい解釈をするものが多く、誤解のない文句にし、何度か説明するようになっているが、一向に改善はみられない。また、グループワークを行う授業で、欠席するとき、メンバーに

ついているかもしれない。社団、会、大学の中よりさらに得てきていないのが現状である。国立教育政策研究所による令和4年度全国学力・学習状況調査の結果(概要)では、上述と同様の課題があがっており、今後も注視する必要がある。

欠席するとき、メンバーに

相互理解と

歩み寄り

でまとめることが多い。レポートの書き方も教えているが、学生は根拠資料に基づいて、自分の考えをまと



愛知淑徳大学准教授 江美 藤木
ビジネス

連絡しないこともよくあった。グループ活動の進捗遅れが懸念されるが、特に気にする様子も見られなかった。これは、大学生の聞く力、読解力、判断力、思考力、想像力の低下によるものだろうか。それも、世代間による違いの理解不足により、うまく意思疎通ができていないからだろうか。ビジネスの現場においても、同じような現象が起

国民生活時間調査2020(NHK放送文化研究所)によると、1日にテレビを見る人は、10・20代で5割前後にとどまり、一方、インターネットを利用する人は10代後半で8割、20代で7割超となった。このように、若者のテレビ離れといった〇〇離れと言及されるが、インターネット環境が整い、スマートフォン普及によつて、時間の使い方に大きな変化をもたらした。インターネットによつて、利便性は高くなり、多くの情報は得られるが、それらの利用の仕方次第で、欠落する力もあるのではないだろうか。今までのあらゆる常識を、改めて見つめなおす時期がせまっているように思う。